

大学等番号	521
-------	-----

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」申請書

1. 基本情報

申請区分	1・ 総合的連携型(地元型) 1・ 総合的連携型(広域型) (2) 教育研究高度化型		
設置形態	1 国立 2 公立 (3) 私立	地域	中国・四国
代表校名	徳島文理大学		
連携校名	香川大学(1)、香川県立保健医療大学(2)		
関係自治体・経済団体等名	香川県、さぬき市*、三木町*、高松市*、香川県医師会、香川県薬剤師会、香川県病院薬剤師会、香川県看護協会、香川県臨床検査技師会、香川県臨床工学技士会		
他の申請への参加状況	大学等名	他に参加する取組名称、代表校名	
	香川大学	『四国の知』の集積を基盤とした四国の地域づくりを担う人材育成、香川大学	
	徳島文理大学	『四国の知』の集積を基盤とした四国の地域づくりを担う人材育成、香川大学	

事業期間	平成 20 年度 ~ 22 年度 (3 年間)																			
取組名称 (40 字以内)	高	度	な	医	療	人	養	成	の	た	め	の	地	域	連	携	型	総	合	医
	療	教	育	研	究	コ	ン	ソ	ー	シ	ア	ム	構	想						
キーワード 重要度の高い順に 5 つ以内	地域に密着したチーム医療、共同授業、学際領域研究、リカレント教育、医療情報共有システム																			

連携取組の概要 (* 400 字以内)

香川県内の医療系学部を有する国公私の 3 大学の連携により、「香川県の医療に関する知の拠点」を形成し、地域に密着したチーム医療を実践できる高度な医療人を養成する「香川総合医療教育研究コンソーシアム」を構築する。具体的には、(1)学部共同授業によって総合医療の早期教育を行い、(2)大学院共同授業によって総合医療専門職を養成し、(3)従来の共同研究に加え新規学際領域研究を推進するとともに共同大学院の設置を目指し、(4)医師会や薬剤師会、看護協会、臨床検査技師会、臨床工学技士会や自治体と協力して、現役の医療人に対してリカレント教育を行う。特に医療機関と調剤薬局など離れた場所での医療情報共有システムを構築して、異職種間での医療情報の共有化を目指す。これらの事業を基に(5)3 大学間の人的交流を発展させ、地元高校生へ協同した広報活動を行う。これらの取組は香川県民の健康意識の向上へとつながり地域貢献となる。【400 字】

【別添2】

平成20年度 戦略的大学連携支援事業「大学間連携戦略」

1. 大学間連携戦略の名称

「高度な医療人養成のための地域連携型総合医療教育研究コンソーシアム構想」

2. 代表校及び連携校、関係自治体・経済団体等の名称

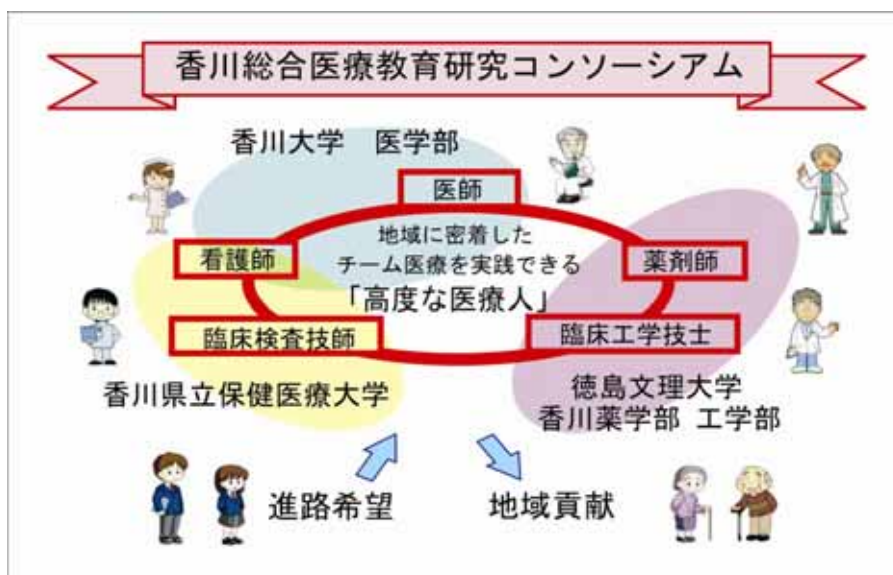
代表校名： 徳島文理大学

連携校名： 香川大学、香川県立保健医療大学

関係自治体等： 香川県、さぬき市*、三木町*、高松市*、香川県医師会、
香川県薬剤師会、香川県病院薬剤師会、香川県看護協会、
香川県臨床検査技師会、香川県臨床工学技士会

3. 事業の戦略目標

香川県における地域社会のニーズに応えるために、医療系学部を有する香川県内の3つの大学（徳島文理大学・香川大学・香川県立保健医療大学）が連携し、地域に密着したチーム医療を実践できる高度な総合医療人を早期から養成する（人を育てる）ことを念頭においた



総合医療教育研究システムを構築することが（高い費用対効果）、今回の連携事業の戦略目標で

ある。我々はこのシステムを「香川総合医療教育研究コンソーシアム」と呼んでいる。この連携事業の成果によって、香川県内の地域に密着したチーム医療のできる医療環境の強化(地域貢献)が期待される。

具体的な連携取組項目は以下のとおりである。

・学部(学士課程)共同授業(総合医療をマスターするための登竜門)

学部初年度の早期体験学習として、チーム医療などについて3大学で連携して学ぶ。この学習によって、総合医療人としての心構えを涵養する。高学年の学生に対しては、連携学部の専門授業を聴けるようにする。「解剖学実習や手術」の見学ならびに「症例検討会」への参加や、卒業論文指導を連携して行う。

・大学院共同授業ならびに社会人教育(専門医師・専門薬剤師・専門看護師・専門臨床検査技師の養成)

大学院教育の共通化を実践することにより、3大学の大学院教育の高度化を推進する。また、生涯学習の機会を共同して提供する。例えば、香川大学医学部ではがん専門医師、がん専門看護師などの養成を始めており(中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアム)、希望者は受講できるようにする。また、薬剤師にもがんや感染症の専門薬剤師制度があるので、その制度に香川県の薬剤師が参加できるよう、大学院共同授業として該当授業を開講し、本事業で支援する。

・共同研究の活性化

3大学間ですでに進行している研究を基にして、連携により新しい学際領域の共同研究を開始する。先に述べた大学院生の指導などについても共同で行う。また農学部や工学部とも連携し、広くライフサイエンス系の共同研究も展開する。

・共同大学院の設置

連携した教育や共同研究の進行に伴いそれらを基盤として医療系の共同大学院、あるいは工学部や農学部なども包含できるライフサイエンス系の大学院の設置に結びつける。

・医療情報の共有化システムの構築(総合医療の具体的実践)

住民の健康に関する情報を、複数の職種の医療人が共有することは、チーム医療の推進において重要であるが、十分に進んでいないため、医療情報を共有化するシステムの開発を共同で実施する。香川県において先進的に勤めている「かがわ遠隔医療ネットワーク(略称:K-MIX)」や電子カルテ化の事業で培ったノウハウを活用して実施する。

・高大連携

高大連携を実施し、地元高校生に対して香川県内で高度な総合医療が学べることをPRする。そして優秀な若い人材が県外へと流出することを防ぐ。またスーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校と連携して、彼らに高度な科学教育を施し、将来有為な人材の確保に努める。将来的には、AO入試へと発展させることも考える。

・その他

教員や事務職員の人的交流、国際交流事業の共同実施、図書館の共同利用、研究機器の共同利用、自治体や関連職能団体との共同事業の推進などを連携して実施する。

10年程度を見通した将来構想としては、次の4点をあげることができる。

- A. 今回の事業期間である平成 20 年度から 22 年度の 3 年間で、医学・薬学・看護学・臨床検査学・臨床工学を相互に補完し、高度な医療人を養成するという「香川モデル」を確立することができる。そのシステムを確立できれば、あとは 3 大学の通常経費で、このモデルを「四国モデル」まで拡大することを目指す。特にチーム医療としては今回の申請では栄養士が入っていないので、香川県内の栄養士養成の短期大学との連携を模索する。さらには徳島文理大学の徳島キャンパスにある医療系学部をはじめ、四国の医療系大学との連携を将来的に進めるものとする。
- B. 今回の事業を実施することにより、3 大学間の学生、教員、職員など組織全体としての交流を深める。3 大学間の連携協定を締結することはもちろんである。組織体系が異なる 3 大学であるため実施に際しては様々な障壁も出現するであろうが、3 大学の努力で克服できるものはそれぞれの努力で、そうでないものについては文部科学省に相談するなどして、より実質的で有効な連携が完成するように進めて行く。
- C. 3 大学で共同大学院の設置を目指す。事業の推進とともに共同研究も進み、それらを基盤として医療系の共同大学院、あるいは工学部や農学部なども包含できるライフサイエンス系の大学院の設置に結びつける。
- D. 事業運営資金の獲得を目指す。教育関係の競争的資金（教育 G P など）に 3 大学連携で応募する。また、自治体や関連団体とも連携した事業に展開する。

4. 密接な連携を担保するための実施体制の在り方

A. 戦略的大学連携支援事業実施体制

3 大学の教員および事務系職員からなる「戦略的大学連携支援事業推進委員会」を組織する。事務局は徳島文理大学香川薬学部置く。また他の 2 大学にはサテライト事務局を設置する。「戦略的大学連携支援事業推進委員会」は定期的に推進委員会を開催し、各年度の実施計画の立案、実施状況の確認、各年度の成果の取りまとめなどを行う。また県内・県外への積極的な広報活動も行う。実際には推進委員会の中の 3 大学の教員および事務系職員のコアメンバーにより頻繁な事業推進状況の打合せを実施していくことが必要である。

評価およびそのフィードバックについてであるが、推進委員会から後述の評価委員会に実施状況を報告し、評価と指導を受ける。推進委員会はそれを基にして改善計画を立て、委員を通じて各大学にフィードバックし、速やかな改善への対応を行う。

B. 協力体制

徳島文理大学の香川薬学部と工学部が薬剤師ならびに臨床工学技士養成を、香川大学医学部が医師と看護師養成を、香川県立保健医療大学保健医療学部が看護師と臨床検査技師を養成している。これらの学部が中心になり、3 大学が連携・機能補完して、他の医療職の役割を正しく理解した総合的医療人養成を共同して実施する。香川県医師会は「かがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)」の運営組織であり、本事業の重要課題の一つである「医療提供施設連携に基づく総合的医療人による医療情報の共有化」への取組において中心的役割を担う。香川県医師会と

香川県薬剤師会、香川県病院薬剤師会、香川県看護協会、香川県臨床検査技師会および香川県臨床工学技士会は、社会人教育（特に合同研修会・勉強会）を3大学と実施し、またその際に高松市内中心部の会場の提供等をする。

C. 評価体制

評価委員会を設置する。そのメンバーは次の通りである：

学内メンバー（3大学の学長または研究担当副学長、該当学部の学部長、合計6名）、学外メンバー（医師会、薬剤師会、病院薬剤師会、看護協会、臨床検査技師会、臨床工学技士会から推薦された委員各1名で都合6名；香川県から推薦された委員1名；徳島大学*・愛媛大学*・岡山大学*の医療系学部から推薦された委員各1名で都合3名、合計10名）

委員会による評価スケジュールは次の通りである：

第1回目：平成20年6月（すなわち事業申請前の申請書の書面評価）

第2回目：平成22年3月（中間評価）

第3回目：平成23年3月（最終評価）

なお、ある年次計画が滞りなく進められているかが、評価の指標となる。具体的には、戦略的大学連携支援事業推進委員会から評価委員会へ実績等の報告を行う。評価委員会は評価が揃い次第、戦略的大学連携支援事業推進委員会に通知する。戦略的大学連携支援事業推進委員会は、委員を通じて各大学に評価結果をフィードバックするとともに、委員会を開き改善計画を作成し、速やかに改善への取り組みを実施する。なお学部学生や大学院生、ならびに本事業に参加された医療関係者からアンケートによる評価も取る。

5. その他大学間連携を実施する上で必要な事項

3大学特に医療系の学部（徳島文理大学香川薬学部、香川大学医学部、香川県立保健医療大学保健医療学部）は比較的近接しているものの、数kmの距離はあり、特に学生の教育活動の実施については幾つかの方途の充実が必要となる。

第1には、大学間のネットワークの完備が急がれる。現在、香川大学では全キャンパス間のネットワークの帯域がギガ化されており、各キャンパス間で高精細動画伝送システムを用いた双方向の遠隔授業が可能となっている。香川大学は学術情報ネットワーク(SINET)との間もギガで接続されていることに加え、独立行政法人情報通信機構(NICT)が推進する新世代ネットワークJGN2plusにより、全国主要研究機関と広帯域で接続されており、これまですでに遠隔医療ネットワークシステムの開発に大きな成果をあげている。ところで、徳島文理大学香川キャンパス、ならびに香川県立保健医療大学は、香川大学のSINETのノードに直接接続されているが、その帯域は1メガ及び10メガしかない。そのため大学間における動画の伝送や容量の大きなコンテンツのやりとりに支障がある。そこで徳島文理大学および香川県立保健医療大学には今回の予算で帯域の強化を図り、3大学間でのネットワークを完備する。

こうして学部共同授業（座学）については広帯域キャンパス間ネットワークを介して高精細動画を双方向に伝送し、臨場感のある遠隔授業を行うことが可能となる。

また、3大学の学生が一同に介する機会を作ることも重要であり、その際には多人数を輸送できるバスでの移動などの交通手段の確保が必要となる。さらには一部少人数の学生が実習・演習・卒論指導等で一定期間かなり頻繁に相互に乗り入れることもあり、そうした際には3大学を繋ぐ公共交通機関がないため、タクシーや自家用車で移動する。将来的に往来の頻度が高まれば、キャンパス間を循環するバスの運行なども検討して行く。